

## 第 2 回総合科学技術・イノベーション会議議事録

1. 日時 平成 26 年 6 月 24 日（火） 8 : 24 ~ 8 : 40
2. 場所 総理官邸 2 階小ホール
3. 出席者

議長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議員	菅 義偉	内閣官房長官
同	山本 一太	科学技術政策担当大臣
同	新藤 義孝	総務大臣
同	麻生 太郎	財務大臣
同	下村 博文	文部科学大臣
同	茂木 敏充	経済産業大臣
議員	久間 和生	常勤議員
同	原山 優子	常勤議員
同	中西 宏明	株式会社日立製作所代表執行役執行役会長兼 CEO
同	橋本 和仁	東京大学大学院工学系研究科教授兼先端科学技術研究センター教授
臨時議員	甘利 明	経済再生担当大臣
同	稲田 朋美	規制改革担当大臣
4. 議題
  - (1) 科学技術イノベーション総合戦略の策定について
  - (2) 革新的研究開発推進プログラムについて
  - (3) 医療分野の研究開発関連の調整費について
  - (4) 国立研究開発法人の事務及び事業に関する評価等の指針について
5. 配布資料
  - 資料 1 - 1 科学技術イノベーション総合戦略 2014【概要（簡略版）】
  - 資料 1 - 2 科学技術イノベーション総合戦略 2014【概要】
  - 資料 1 - 3 諮問第 1 号「科学技術イノベーション総合戦略 2014 について」に対する答申（案）
  - 資料 2 - 1 革新的研究開発推進プログラム（IMPACT）のプログラム・マネージャー採用案について
  - 資料 2 - 2 革新的研究開発推進プログラム（IMPACT）のプログラム・マネージャーの選定について（山本大臣説明資料）
  - 資料 3 - 1 医療分野の研究開発関連の調整費に関する配分方針
  - 資料 3 - 2 平成 26 年度第 1 回医療分野の研究開発関連の調整費の実行計画
  - 資料 4 諮問第 2 号「研究開発の事務及び事業に関する事項に係る評価等の指針の案の作成について」
- 参考資料 1 諮問第 1 号「科学技術イノベーション総合戦略 2014 について」
- 参考資料 2 第 1 回総合科学技術・イノベーション会議議事録（案）

## 6. 議事

### 【山本科学技術政策担当大臣】

それでは定刻となりましたので、第2回総合科学技術・イノベーション会議を開会いたします。

本日は、臨時議員として甘利経済再生担当大臣、稲田規制改革担当大臣が御出席です。

本日は最後にプレスが入ります。よろしくお祈りいたします。

それでは、議題に入りたいと思います。議題1、科学技術イノベーション総合戦略の策定について、私より説明をさせていただきます。

科学技術イノベーション総合戦略2014につきましては、前回の本会議におきまして、その概要を御説明いたしましたので、本日は総合戦略2014の目玉と言える日本型のイノベーションシステムの変革について御説明をさせていただきます。

資料1-1の4ページを御覧ください。イノベーションシステムの全体最適化の視点から、イノベーションハブの形成に関わる取組のイメージ図を用意いたしました。甘利大臣からもアイデアをいただきましたが、イノベーション実現のためには優れた研究開発の成果をいかに実用化・事業化へつなげていけるかが重要です。そのためには、イノベーションが創出される各過程での橋渡しが大きなポイントになります。

この図ではイノベーションを担う代表的な組織として、大学、研究開発法人、企業の関係性を描いております。イノベーションの芽を育み、駆動させ、結実させるという各過程での橋渡しを円滑にするには、この三者の間で人材、資金が行き来し、相互作用を促す環境整備が必要です。

今回の総合戦略ではそのための3つの重点的な取組を掲げております。

第一に、組織の枠を越えて人材の流動性が向上し、適材適所の人材配置を可能にすることが必要となります。このため、年俸制の導入促進、医療保険・年金等の扱いにおける環境整備などにより、大学と研究開発法人等間でのクロスアポイントメント制度を積極的に導入・活用します。

第二に、革新的な技術シーズを事業化・製品化に結びつけていく橋渡しのシステムの強化が必要となります。このため、橋渡し機能を担う公的研究機関等に着目し、その機能強化を大きなテーマに掲げています。具体的には、外部資金の受入れを基本とするなど、産業技術総合研究所等の改革を先行的に進めてまいります。

第三に、これらと同時に、さまざまなアイデア、ノウハウを持つ人材・組織が共通のビジョン・目標の下に連携し切磋琢磨する多様な場やネットワーク、すなわちイノベーションハブの形成が必要です。このため、今回は研究開発法人改革が進展しつつあることを踏まえ、特に研究開発法人を中核として組織の垣根を越えた連携体制を構築し、世界に互する拠点の形成を加速化いたします。

これらに加えて、イノベーションを担う人材力を強化するため、大学において卓越した大学院の形成などの大学改革の先行的な取組を重点的に推進していくことが重要です。

こうした取組により、能力と意欲を持った人材の多様な挑戦と相互作用を促し、持続的な発展性のあるイノベーションシステムの実現に向けて取り組んでまいります。

それでは、御意見がございましたら挙手をお願いいたします。では、下村文部科学大臣。

### 【下村文部科学大臣】

科学技術イノベーションは経済成長の原動力でありまして、本戦略の内容は別途検討が進んでいる成長戦略にも盛り込まれているものと承知をしております。

また、国会が終了いたしました。大学ガバナンス法案も圧倒的な多数で衆参で可決をいたしまして、

これから文部科学省におきまして有識者会議を開きましてこの大学学内学則、規約等のガイドラインも早急に作ることによって来年4月から各大学においても改正案に則った運営が行われるようなフォローアップをしてまいりたいと思います。

また、本戦略に基づいて文部科学省としても今申し上げた大学改革とか、それから研究開発法人改革をはじめとする科学技術・イノベーションに関わるシステム改革をさらに進め、科学技術・イノベーションに適した環境創出の実現に向けて尽力してまいりたいと思います。

本戦略に則り、世界で最もイノベーションに適した国を実現するためにはそのようなシステム改革とあわせて科学技術振興費全体の拡充が必要不可欠と認識しております。夏の平成27年度予算概算要求に向けて総合科学技術・イノベーション会議のリーダーシップ発揮をお願い申し上げたいと思います。

【山本科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは、茂木経済産業大臣。

【茂木経済産業大臣】

優れた技術シーズと事業化の間の死の谷、最近では魔の川とかダーウィンの海とも言うようでありますけれども、これらを乗り越えることがイノベーションの鍵でありまして、この谷を橋渡しする機能を高める必要があると考えております。

経済産業省としても、まず山本科学技術政策担当大臣から言及のありました産業技術総合研究所において大学との人材交流をふやし、企業からの資金も導入しながら、優れた技術を事業化につなげ、研究開発を推進していきたいと考えております。

また、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）につきましては、米国のDARPAの例に倣いまして実用化の目標を明確に設定した上で、最先端の技術を結集し、機動的に研究開発を推進する手法を導入することにより、速やかに成果につなげていきたいと考えております。

以上です。

【山本科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

それでは、答申案の通り決定してよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

【山本科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

案の通り決定させていただきます。

続きまして、議題2、革新的研究開発推進プログラム（IMPACT）について、私より説明をさせていただきます。

資料2-2、2ページを御覧いただきたいと思います。

IMPACTについては総合科学技術・イノベーション会議の司令塔機能強化の柱の一つとして、またイノベーションに最も適した国づくりのための国家重点プログラムとしてこの1年間取り組んでまいりま

した。

2ページの左にあるように、I m P A C Tの特徴は、研究開発プログラム全体をデザインし、責任を持って実行する、いわばプロデューサーたるプログラム・マネージャー（PM）にあります。3ページの通り、3月にPMの公募を開始し、産・学・官の各方面からの高い関心の下、180件の応募があり、慎重に調査を進めてまいりました。

5ページを御覧ください。I m P A C Tらしさを取り入れた審査を行うため、産業界や学术界の有識者に大所高所からの全体俯瞰レビューを、専門知識をお持ちの方々に技術レビューをお願いし、評価いただきました。また、特に面接審査を重視し、PMとしての適性を厳しく評価をさせていただきました。

6ページから9ページ、ざっと御覧ください。お手元の12名は厳しい審査を通過した企業の第一線で活躍されている方、経営幹部経験者、分野で第一人者の大学の先生、新進気鋭の若手、女性研究者など、多彩なバックグラウンドを持ったチャレンジャーたちです。

PMが進める各プログラムは、それぞれ内容は異なりますが、新しいコンセプトを持った、ちょっぴりワクワクする中身になっております。起業・創業の精神に満ち溢れた国を目指して日本の将来を切り開いていくことを期待したいと思います。

本日からPMたちが最高の研究者と技術を結集するべく、プロデューサーとして研究開発プログラムを具体的に作り込み、秋には実際に動き出します。総合科学技術・イノベーション会議としてはその動きを見極めながら、次の展開を考えてまいります。

それでは、御意見がございましたら挙手をお願いします。有識者の方から。どうぞ、久間議員。

#### 【久間議員】

当初、PMの素質を持った人材はいるのか、いたとしてもどうやってその人材を探すのかなど、心配なことが多かったのですが、おかげさまで12名の優れたPMを採択することができました。

産・官・学で分けますと、産業界が5名、大学が6名、国立研究所が1名とバランスがよいです。6名の大学の先生方も、産業界出身や、産業界から強力なバックアップを受けて提案書を作成した方、ベンチャー経験がある方など、12名すべて起業家精神が旺盛です。

第一関門をようやく突破しました。これからは第二関門で、どう研究開発プログラムを作り込むかです。我々有識者議員も一体になって、プログラム作り込みに協力したいと思います。

総理ほか閣僚の皆様も、引き続き御支援よろしく願いいたします。

#### 【山本科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

ほかに有識者の方、どうぞ、原山先生。

#### 【原山議員】

今大臣が「ちょっぴりワクワク感」とおっしゃったのですが、「たっぷりワクワク感」をもたらすものになりたいと思いますし、これがシンボルとなって日本人の若い人たちが続くようなものにしたいと思っております。

#### 【山本科学技術政策担当大臣】

よろしいでしょうか。

閣僚の方からも御意見、何かございますか。よろしいですか。では、甘利経済再生担当大臣。

**【甘利経済再生担当大臣】**

さっきのイノベーションシステムですけれども、ドイツのフランホーファーをまねてということにしたのですが、私のところに毎年来るドイツの連邦議会議員のリーゼンフーバーさんという人がいて、彼が昔、研究技術担当大臣やっていたというので、お宅の国のフランホーファーを取り入れさせてもらったのだと言ったら、彼は自分が担当してやったのだと言われました。その時に、何が一番問題だったのかと尋ねたら、研究現場に経済という文化を持ち込むのが一番大変だったと、私が感じたのと同じことを彼も言っていましたので、これは同じ問題意識で進め必要があるなということを感じました。

**【山本科学技術政策担当大臣】**

ありがとうございました。

案の通り決定させていただきます。

それでは、時間が少し遅れておりますので、次にいきたいと思います。

次に議題3、医療分野の研究開発関連の調整費について、菅官房長官から御説明をお願いしたいと思います。

**【菅官房長官】**

内閣府に計上します科学技術イノベーション創造推進費のうち健康・医療分野については年度途中の研究開発の加速等に活用する調整費として、健康・医療戦略推進本部が配分決定することになっております。

具体的には500億円のうちの35%に相当する175億円を健康・医療分野に充てることとしており、第1回目の配分については6月10日の健康・医療戦略推進本部においてお手元の平成26年度第1回医療分野研究開発関連調整費の実行計画の通り決定をいたしておりますので、御報告をいたします。

どうぞよろしく申し上げます。

**【山本科学技術政策担当大臣】**

それでは、この件はこれでよろしいでしょうか。

わかりました。

それでは、次にいきたいと思います。

次に、新藤総務大臣の方から総合科学技術・イノベーション会議に対して研究開発の事務及び事業に関する事項に係る評価等の指針の案の作成について諮問がございました。新藤総務大臣より簡潔に御説明をお願いいたします。

**【新藤総務大臣】**

去る6月13日に独立行政法人通則法の一部を改正する法律が公布されました。同法に基づきまして主務大臣が行う中期目標等の設定及び業績評価に係る政府統一的な指針を総務大臣が策定することになっております。この指針を策定するに当たりまして、本会議におきます研究開発の事務及び事業に関する事項に係る指針の案を作成いただき、これを適切に反映させる必要があるため、この指針の案についての調査審議をお願いしたいと思います。

総務省といたしましては、今般の独立行政法人制度改革の趣旨である主務大臣が法人に的確かつ明確なミッションを付与し、厳正に評価を行い、評価結果を踏まえた業務改善のための措置を講ずる、それによりP D C Aサイクルが機能し、各法人の成果最大化が図られることが重要と、このように考えているわけであります。

こうした趣旨を十分に踏まえ、研究開発の事務及び事項に係る指針の案をこの会議において御検討いただきたいと思ひます。

**【山本科学技術政策担当大臣】**

ありがとうございました。

本件につきましては評価専門調査会で審議を行った上で、会議として答申することといたします。

それでは、最後に安倍総理大臣より御挨拶をいただきます。

プレスを入れてください。

(プレス 入室)

**【安倍内閣総理大臣】**

本日、科学技術イノベーション総合戦略2014を取りまとめることができました。これまでの有識者議員の皆様や関係閣僚の御尽力に感謝申し上げます。

有言実行こそが安倍内閣の信条であります。政府一体となって強力に実行し、その進捗状況や成果はこの会議できちんとフォローアップしていきたいと思ひます。

イノベーションこそが成長戦略の鍵であります。昨年は予算の戦略的策定、S I PやI m P A C T等の創設などに取り組み、本会議の司令塔機能の強化に大きな成果を上げることができました。

本年は世界で最もイノベーションに適した国を実現すべく、イノベーションシステム改革のための具体的取組を加速化させたいと思ひます。特に革新的な技術の芽を事業化に結びつける日本型橋渡しシステムの構築を目指します。このため、研究機関の機能強化や組織の枠を越えた人材流動化を実行いたします。また、I m P A C Tはいよいよ実行段階であります。本日決定したプログラムマネージャー（PM）は挑戦を恐れず、困難に立ち向かい、我が国の未来をイノベーションで力強く切り開くことができる逸材であります。政府としても強力に支援いたしますので、ぜひ私たちがワクワクするような夢のある研究に取り組み、その成果をこの会議に御報告をいただきたいと思ひます。

(プレス 退室)

**【山本科学技術政策担当大臣】**

本日の議題は以上です。

第1回の議事録及び本日の資料は公表いたします。

以上で会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。